

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

Challenge, Change, Smile! (自らの力を高め、視野を広げるために何事にもチャレンジし、自分自身の可能性を引き出し、高め、自己変革をめざす、そして笑顔が絶えない) を合言葉に生徒が来たいと思う学校、来て良かったと思える学校をめざす。そのために

- 1 生徒に「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させ、学力の向上に取り組む。
- 2 生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を持ち、責任ある行動をとることができるよう生徒指導を充実させる。
- 3 生徒が学習活動・学校行事、部活動等に積極的に参加するとともに主体的に進路を選択し、豊かな自己実現を図れるよう支援する。
- 4 生徒が自らを律し他者を尊重し、思いやる心を持ち、人権や生命を尊重する精神を育む教育に取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 高大接続改革実行プランや新しい学習指導要領を踏まえ、「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させる授業改善(主体的・協働的な学び)の推進と教員の資質向上に取り組む。

- ア 授業力向上PTを中心に、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組む。
- イ ICTを活用した授業改善やアクティブラーニングについて研究をすすめる。
- ウ ベル始めを徹底し全教員が45分を有効に使った授業を展開する
- エ 教科会議を充実し、各教科で3年間を見通した指導内容や指導方法、評価の見直しを図る。
- オ 朝学習や放課後学習等について検討・試行実施する。

* 学校教育自己診断(生徒)の「授業」に関する項目の肯定的評価(H26:46.0%)を3年後には75%に上昇させる。

- (2) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。

- ア 英語検定、漢字検定、その他の資格検定の広報を充実し受験者の増加及び合格率の向上に取り組む。
- イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。

* 検定の受験者数を10%ずつ増加させ3年後には30%増をめざす。合格者を5Pずつ向上させ3年後には15P増をめざす。

* 学校教育自己診断(生徒)「授業において生徒が自分で考えをまとめたり発表する機会がある」の肯定的評価(H26:45.9%)を3年後には75%とする。

2 豊かな自己実現の支援・夢や目標を持った生徒の育成

- (1) 志学、キャリア教育、人権教育等について、「総合的な学習の時間」とLHRをさらに有機的に連携させ統合的な指導計画を確立する。

- ア 現在の学年ごとの計画から、3年間を見通した計画への改善に取り組み、平成29年度に計画を完成する。

* 学校教育自己診断(生徒)の進路指導、道徳・人権教育に関する項目の肯定的評価(H26:63.3%、46.6%)を3年間で75%に上昇させる。

- (2) 進路指導の充実を図る。

- ア 進学重点クラスを2学年で設置、継続的に実施できるようなシステムを構築する。

* 関西の中堅私立大学への現役合格者数(H26:30名)を3年間で50%増加させる。

- (3) ルール・マナー遵守と規範意識の涵養

安全で安心、且つ気持ちの良い学校生活を送るために、お互いが進んで挨拶を行うと共にルールやマナーを遵守できる生徒を育成する。そのために「厳しさと優しさ」を基本理念に全教職員が一致して生徒指導に取り組む。

- ア あいさつ運動に教職員全員で取り組む。
- イ 服装・頭髪・装飾品等の指導強化に取り組む。
- ウ 遅刻者数の減少に取り組む。
- エ 学校生活や授業規律について、全教員が一致して生徒に守らせるべき最低限のルールを徹底し、組織的・統一的な指導を行う。

* 学校教育自己診断(保護者・生徒)の生徒指導に関する項目の肯定的評価(H26年度:66.8%、49.1%)を3年間で75%、60%にする。

* 遅刻者数(H25:14000⇒H26:8300)を3年間で半減させる。

- (4) 生徒の自主活動の育成・活性化

- ア 学校の教育活動における様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動加入者を増加させる。
- イ 既存の部に囚われず、発想を柔軟にして生徒を学校に定着(放課後等に活動)させる取組みを企画・検討し集団や学校への帰属意識を高める。
- ウ 3年間を見通した学校行事の在り方を検討し、平成29年度までに行事計画を再構築する。
- エ 生徒自治会を中心として、生徒のリーダー育成に取り組む

* 部活動加入率(H26年度52.8%)を3年間で65%に上昇させる。

* 学校教育自己診断(生徒)「港高校で充実した高校生活を送っている」(H26年度:64.5%)を3年間で75%に向上させる。

- (5) 課題や悩み・障がいのある生徒への支援・教育相談の充実を図る。

- ア 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制をより一層充実し、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができる体制を確立する。

* 学校教育自己診断(保護者・生徒)の関係項目の肯定的評価(H26:54.9%、40.0%)を3年間で75%にする

3 学校運営体制の強化・改善

- (1) 「将来構想委員会(MAP)」が発案し、運営委員会が中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。

- (2) 学年主任連絡会を構成し学年の独自性は尊重しながらも継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成する。

- (3) 中堅・若手教員の育成と積極的登用を図り、校内人事を活性化する。

- ア バディシステムを導入した相互扶助・相互研修を実施し人材育成を図る。

* 学校教育自己診断(教員)の関係項目の肯定的評価(H26:51.8%)を3年間で75%とする。

- (4) 広報活動と地域連携の充実

- ア リニューアルしたホームページを充実し広報活動を活発にする。
- イ 地域連携を推進し地域から愛される学校をめざす。

* 学校教育自己診断(保護者)「HPの閲覧」の肯定的評価(H26:20.8%)を3年間で75%とする。

4 校内学習環境の改善と美化清掃の徹底

- (1) 学習環境の維持・向上に努めると共に環境改善のための予算確保に努力する。

- (2) 緑化の推進や各室、倉庫等の整理整頓に努めると共に校内清掃を徹底し気持ちの良い学習環境の維持に努める。

* 学校教育自己診断(保護者・生徒)の関係項目の肯定的評価(H26:77.6%、56.0%)を3年間で85%、75%とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【回答数】 生徒 905 名 (95.1%)、保護者 560 名 (61.9%)、教員 58 名 (100%) 保護者アンケートの回収率が 61.9%と昨年の 42.8%を大幅に上回った。これまで 60%を超えたことはなく、保護者の学校への関心が若干高まったと言える。</p> <p>【学力の育成】 今年度は、「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させる授業改善（主体的・協働的な学び）を進めるため、アクティブラーニングについての研修・研究、言語活動を重視した授業の取組み等を進めた結果、「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」について生徒全体で 45.9%から 55.7%と約 10P 向上した。特に 3 年生が 64.9%と他学年に比べ高かった。2 年後には目標の 75%に到達できるよう、引き続き授業改善に取り組んでいく必要がある。「授業が分かりやすい」では、肯定的な意見が否定的な意見を若干上回るものの、ほぼ同じ割合であり意見が拮抗している。一方保護者の「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」では、肯定的回答より否定的回答が 10P ほど上回り 48.4%となっている。それに比べて教員の「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」は 89.7%となっており、教員が意識しているほどその努力は生徒や保護者に伝わっていない。このことは、授業アンケートにおける各教科への授業満足度についても同じことが言える。分かりやすいという評価は授業満足度と相関があり、自由記述においても教員間の違いを指摘する声が多い。学力の幅が非常に広い本校の現状において、総ての教員が個々の生徒にしっかりと向き合いながら生徒がよく分かる授業を展開するための取組みが一層求められる。</p> <p>【自己実現支援】 今年度も遅刻者数の減少と服装・頭髪・装飾品等の指導強化に取り組んだ結果、遅刻は 29%の減少を見た。生徒は学校の規則やルールを守っていると答えた生徒は、昨年度の 48.1%から 56.3%と 8.2P 向上した。保護者の生徒指導の方針に共感できるは、67.3%で昨年度の 66.8%とほとんど変わらないが、否定的な回答が 22.7%から 18.2%へと 4.5P 少なくなった。自由記述では、あいさつ運動、服装や身だしなみの指導強化に期待する声が多い。3 割強の生徒が学校の規則やルールを守っていないと回答しており、引続きルール・マナー遵守と規範意識の涵養に教職員が一致団結して取り組んで行く必要がある。</p> <p>学校へ行くのが楽しい、学校で充実した高校生活を送っているは、昨年度を 1～2P 上回るもののほとんど変化はなく、其々 64.7%、66.7%となっている。また、港高校生であることに誇りを持っているについてもほとんど変化が無く 40.7%となっている。肯定的回答が 75%を超えたのは体育祭、文化祭等学校行事は楽しく行えるように工夫されているのみであり、難しい課題ではあるが、生徒の自己肯定感を高め、行事だけでなく学校に愛着を持つ生徒を育成するための企画や教育の取り組みについての検討工夫が求められる。</p> <p>【学校運営について】 学校運営に教職員の意見が反映されていると感じている教員は半数を切っており、服務や規律についての厳しさは維持しつつも教職員が自身の意見や考えを自由に述べるができるような体制づくりや風通しの良い職場環境の形成に引続き努める必要がある。</p> <p>広報活動等については概ね好評であり、更に HP の充実やメール配信システムの維持向上に努めて行くことが重要である。</p>	<p>第 1 回（5 月 30 日（土） 10:00～12:00） 【学校経営計画・評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や授業規律についての指導方針を生徒達に年度当初に示してはどうか。 ・規律指導について、指導の徹底を望む声が多い一方、服装や化粧等もっと自由にすればいいという保護者間での意識の違いは、保護者の価値観の多様化を示しており現代の学校が抱える課題としても理解できる。 ・学習指導について、「子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」という保護者の否定的回答が 50.5%であるのに対して、「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」という教員の肯定的回答が 94.6%であり、保護者と教員間の意識に大きな乖離がみられることの分析が必要である。 ・進学目標を「中堅私大」だけでなく国公立大学を視野に入れるべきではないか。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検・漢検の充実に取り組まれているが、その内容が保護者にまで届いていない。 ・「考えさせる授業」を進めてほしい。ICT を使って授業をするだけではなく、考えさせる時間を確保するための工夫・活用として ICT を使用してほしい。 ・ICT の整備や冷房設備の設置など、教育環境改善のために PTA の予算が有効に使えるよう協議会が企画する動きを起こしてほしい。 <p>第 2 回（10 月 31 日（土） 10:00～12:00） 【学校行事等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権体験学習について、PTA を通じて保護者にも案内し公開して欲しい。 ・修学旅行は、APU（立命館アジア太平洋大学）の留学生との交流やフィールドワークを通して様々な国の留学生と出会い多くの話を聞いたこと、民泊での体験がとても印象的で楽しかったと子どもから聞いている。 <p>【3 年進路結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験生は早く進学先を決めたいと思っている。親としても指定校推薦、AO 入試、公募推薦などで早く進路先が決まれば、受験料の支出が少なく経済的に助かると考えてしまう。 ・高校に進学したら評定を上げて大学受験では指定校推薦を狙いなさいという塾の指導があるということを知っている。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼からの学校見学会は、420 名の参加者があり人気が高いのは喜ばしいこと。（H 委員のように）校外から応援してくれる方が必要だ。 ・授業見学では、寝ている生徒がいる授業もあった。私は居眠りをしている先生に怒られた記憶がある。怖い先生だったが、ただ叱るだけでなくよく声をかけてくれて面倒見が良くその先生のことが大好きになった。先生は生徒にしっかりと向き合って何を如何に伝えていくかということが大切で、生徒との関わり方、話し方が重要だと思う。生徒の思い出に残る先生になってもらいたい。 ・反転授業の取組をされているようだがホームページからアクセスできるように改良されたことはとても良いと思う。 ・授業アンケート等でマイナスの意見が出ていた先生方への校長先生の指導をお願いしたい。また、今後の授業力向上という点で、学校全体の対応として授業アンケートと公開授業のマッチングに期待しています。 ・先生が facebook 等を利用して、もっと学校の事を情報発信してもらいたい。 <p>第 3 回（2 月 19 日（金） 15:00～17:00） 次年度へ向けての提言</p> <p>【確かな学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において「分かりにくい」という生徒の声があるのは、生徒とのコミュニケーション不足があると思われるので、生徒としっかりと向き合った授業を展開してほしい。 ・授業公開や AL（アクティブラーニング）についての研修を活発にし、更に授業力の向上に努めてほしい。 ・基礎学力向上のための方策についてさらに検討してほしい。 <p>【豊かな自己実現の支援・夢や目標を持った生徒の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業以外に生徒が色々なことに挑戦する取組みや企画を考えてもらいたい

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させる授業改善（主体的・協働的な学び）の推進と教員の資質向上</p> <p>ア 授業力向上PTを中心に、公開授業や研究授業、授業アンケートを活用した授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>イ ICTを活用した授業改善やアクティブラーニングについて研究をすすめる。</p> <p>ウ ベル始めを徹底し全教員が45分を有効に使った授業を展開する</p> <p>エ 教科会議を充実し、各教科で3年間を見通した指導内容や指導方法、評価の見直しを図る。</p> <p>(2)国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>ア 英語検定、漢字検定、その他の資格検定の広報を充実し受験者の増加及び合格率の向上に取り組む。</p> <p>イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア PT会議等の年間スケジュールを明確にし、6月、11月の授業観察デイ（各3日間）を活用した研究授業や、授業アンケート後の振り返りシートを活用した授業改善の取組みを推進する。</p> <p>イ・ウ アクティブラーニングについての教員研修を5月に実施、その後複数校と連携した研修を実施する。以降、各教員が研究を進め、ICT活用や生徒が主体的に学ぶ要素を取り入れた授業改善に取り組む。その成果を各教科で2学期以降、公開授業や研究授業として実施する。11月に成果発表を兼ねて教員研修を実施する。</p> <p>エ①生徒の現状に適合した入学から卒業までを見通したカリキュラムを作成する。</p> <p>②授業改善に向けた研究授業の実施を必須とし教科会議において年度当初に役割分担やスケジュール等を明確にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 英検や漢検受験へのモチベーションを上げるための工夫、特別講習会の実施等英語科、国語科を中心に取り組む。</p> <p>イ (1)のイ・ウと同様</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員の授業観察回数・率(2回以上、90%)</p> <p>・振り返りシートの提出率(H26:65% ⇒ 80%)</p> <p>イウ・研修参加率(90%)</p> <p>・公開・研究授業実施数</p> <p>エ①カリキュラムの完成状況</p> <p>②研究授業実施教科数</p> <p>*11月成果発表実施の有無</p> <p>*項目の肯定的評価(80%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・受験者数前年度比 10%UP</p> <p>・合格者数前年度比 5P UP</p> <p>イ (1)イ・ウと同じ</p>	<p>(1)</p> <p>ア 総ての教員が2回以上の授業観察を実施。また、11月16日には7教科で研究授業を実施、1月28日に成果報告会を実施した。(100%)振り返りシートの提出率は100%となった。(◎)</p> <p>イウ 研修参加率95%、公開研究授業実施数7教科11名</p> <p>エ ①各教科が取組みの途中</p> <p>②7教科で11月に研究授業、成果発表会を1月に教員研修を兼ね実施、ほとんどの教員が参加し授業方法や評価についての課題が明確になり次年度への取組みを深める好機となった。(◎)</p> <p>肯定的評価(教育計画60.3、教材の工夫・精選87.9、授業方法の検討74.1 学習指導の工夫89.7)</p> <p>(2)ア英検・漢検 受験者数・合格者数(英検105→130・48→46 漢検37→94・17→23)</p> <p>(○)</p> <p>イ「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」生徒評価9.8P UP(45.9→55.7)</p> <p>(○)</p>
2 豊かな自己実現の支援・夢や目標を持った生徒の育成	<p>(1)志学、キャリア教育、人権教育等について、「総合的な学習の時間」とLHRをさらに有機的に連携させ統合的な指導計画を確立する。</p> <p>ア 学年ごとの計画から、3年間を見通した計画への改善に取り組み、平成29年度に計画を完成する。</p> <p>(2)進路指導の充実</p> <p>ア 進学重点クラスを2学年で設置、継続的に実施できるようなシステムを構築する。</p> <p>(3)ルール・マナー遵守と規範意識涵養</p> <p>ア 挨拶運動に全教職員で取り組む。</p> <p>イ 服装・頭髪・装飾品等の指導強化に取り組む。</p> <p>ウ 遅刻者数の減少に取り組む。</p> <p>エ 全教員が一致して生徒に守らせるべき最低限のルールを徹底し、組織的・統一的な指導を行う</p> <p>(4)生徒の自主活動の育成・活性化</p> <p>ア 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動加入者を増加させる。</p> <p>イ 生徒を学校に定着(放課後等に活動)させる取組みを企画・検討し集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ウ 3年間を見通した学校行事の在り方を検討し、平成29年度までに行事計画を再構築する。</p> <p>エ 生徒自治会を中心として、生徒のリーダー育成に取り組む</p>	<p>(1)ア MAP(将来構想委員会)の中で検討チームを構成し、今年度中に概要プランを作成する。</p> <p>(2) 進学重点クラスを2学年で設置、生徒の学力や進路目標に合わせて現行の選択科目をパターン化し、3年生のクラス編成を行い易くする。</p> <p>(3)</p> <p>ア 全教職員が名札を着用し、挨拶運動に取り組む。(生徒が教職員や来校者に対して進んで挨拶できるようにする)</p> <p>・各学期に2回以上の強化週間を設ける</p> <p>イ 化粧や装飾品についての指導を明確にし、全教職員が一致協力して生徒指導に当たる。生徒集会(全校集会)を定期的に開催し規律指導を徹底する。</p> <p>ウ 新しく設定した校長訓告の基準を更に厳しくし特別指導の在り方を工夫する。</p> <p>エ 授業力向上PTを中心に今年度の明確な授業ポリシーを定め、各教室に掲示すると共に全教員が共通した指導を実施する。</p> <p>(4)</p> <p>ア・イ 部顧問の主・副の在り方を見直し、副顧問を中心とした放課後クラブ(第2LAN教室を活用した勉強クラブ)等の創設について企画・試行する。</p> <p>ウ MAPにおいて検討、概要の原案を作成、運委で調整し、今年度中に概要を作成する。</p> <p>エ 自治会生徒やクラブのキャプテンやマネージャーを対象としたリーダー研修等について企画・検討する。</p>	<p>(1)今年度中に概要を作成</p> <p>(2) 実施の有無</p> <p>(3)</p> <p>ア・名札着用率(90%)</p> <p>・挨拶運動参加率(85%)</p> <p>イ・全校集会の実施数</p> <p>ウ・特別指導の企画の有無</p> <p>・遅刻者数前年度比40%減</p> <p>エ・教室掲示の有無</p> <p>*学校教育自己診断(保護者・生徒)の生徒指導に関する項目の肯定的評価(H26:66.8%、49.1%)を70%、55%にする。</p> <p>(4)</p> <p>ア・イ 検討・進捗状況・創設の有無</p> <p>ウ・今年度中に概要を作成</p> <p>エ・企画・検討・実施の有無</p> <p>進捗状況</p> <p>*学校教育自己診断における(生徒)「充実した学校生活を送っている」(H27:64.5%)</p> <p>(教員)「学校行事の工夫・改善」(H27:79.3%)を85%に向上させる</p>	<p>(1) コア会議において構想に着手しているが概要の作成にまでは至っていない(△)</p> <p>(2) 有、1月から希望者対象に毎土曜日進学講座を開講、今後の継続が課題</p> <p>(3) ア85%・80%(△)</p> <p>イ 始・終業式に全体指導を5回、その他学年集会時に指導実施(○)</p> <p>ウ有、前年同期比29%(一昨年度比56%)の減少(△)</p> <p>エ全体統一テーマはC,C,S、ベルの始めが授業の開始とし各担任が各々にテーマを設定し掲示・板書等を実施(○)</p> <p>生徒指導に関する項目の肯定的評価は、67.3%、53.7%と若干の向上はあるものの大きな変化はなかった。協議会の意見にもあるように価値観の多様化が進む中、学校の指導方針を明確に保護者に伝えていく必要がある。(○)</p> <p>(4)アイ 企画実施したが生徒の参加が少なく運営に無理があり土曜講習にシフト64.5→66.7、83.9→79.3(△)</p> <p>ウ概要検討中</p> <p>エ 企画実施6回、予想以上の成果と課題が明らかになった。次年度に向けて更に充実強化していく。(◎)</p>

府立 港高等学校

<p>3 学校運営体制の強化・改善</p>	<p>(1)「将来構想委員会 (MAP)」が発案し、運営委員会が中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。 (2)学年主任連絡会を構成し学年の独自性は尊重しながらも継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成する。 (3)中堅・若手教員の育成と積極的登用を図り、校内人事を活性化する。 ア バディシステムを導入した相互扶助・相互研修を実施し人材育成を図る (4)広報活動と地域連携の充実 ア リニューアルしたホームページを充実し広報活動を活発にする。 イ 地域連携を推進し地域から愛される学校をめざす。</p>	<p>(1)MAPを定期開催し、2(1)アの業務を中心に検討を進める。また、MAPや運営委員会での議論や進捗が他の教職員にもよく分かるように報告や周知方法を工夫する。 (2)コア(経営戦略)会議の構成に学年主任を加えると共に学年間の連絡連携がスムーズに行われるよう連絡会を構成し70期生の入学を機に3年間の育成計画を作成、ブラッシュアップさせながらH29年度に完成させ継続性・連続性のあるものとする。 (3) ア 教職5年以上の者と未満の者でバディをつくり課題解決や研修に臨ませるなど、OJTも活用しながら研修を充実させ人材育成を行う。 (4) ア 全ての教員が更新できるように、HP講習会を各学期に実施し、50%の教員が更新実績をつくるようにする。また個人情報を含まない配付物等を極力アップしていく イ 校内外美化活動の継続実施、港区役所、波除町会、地元中学校との連携した企画を実施する。</p>	<p>(1)(2) 学校教育自己診断(教員)の関連項目の肯定的評価(H26:51.8%)を65%に向上させる。 (3)研修会の実施回数5回。学校教育自己診断(教職員)の肯定的評価(H26:73.2%)を80%にする。 (4) ア・講習会実施実績 ・更新経験率 50% ・配付物の掲載率 50% イ・美化活動:学期2回以上 ・関係機関等との連携事業数 ・学校協議会での意見</p>	<p>(1)(2)学年主任をコア会議のメンバーとしたことで、学年間の連携がスムーズになり学年主導で動く本校組織にマッチした働きが生まれるようになった。各分掌がリーダーシップを示しながら学年色を発揮できる形となるよう人事配置と組織業務の見直し、分掌長の育成等が課題である。関連項目「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定的評価は(51.8%→48.3%)と低下したが、一部教員の意見は良く反映されているとの記述があり、運営委員会での内容等を職員会議等において情報発信していくことや教職員が自身の意見や考えを自由に述べるができるような体制づくりが課題である。(○) (3)初任者の研修は毎週金曜日3限に計画的に実施できたが全体でのバディシステムは実施できなかった(△) (4)ア講習会実施3回(○) 更新経験率25%(△) 配布物掲載率80%(○) イ美化活動各学期2回(○) 区役所、消防、町会との防災対策会議を実施、会議の定例化や総合訓練へと発展させることが課題 (○)</p>
---------------------------	--	---	--	---